

昭和興産

昭和興産(上海)貿易有限公司

節目の年でさらなる高み



雷国光
董事長・総経理



昭和興産(上海)貿易はさらなる高みを目指す。来年は設立20周年を迎えるとともに、昭和興産グループとしても80周年を迎える記念の年。ここに向けて3力年の中期経営計画「SKICHEA LLENGE」を推進している。そのなかで中国拠点は、成長ドライバーとして大きな役割を担う。中国が国策として注力する電気自動車(EV)、情報電材分野での存在感を高める。また新型コロナウイルスの感染拡大にともない、BCP事

業継続計画の観点から、日本・東南アジアへの輸出ビジネスの拡大が見込まれる。昭和興産(上海)貿易は2つのビジネスで構成。中国国内で仕入れて日本などへの輸出、在中國日系企業への原料や中国市場向け高付加価値品の輸入だ。コロナの影響で各国のSC(サブプライチ

ーン)が混乱するなか、同社のビジネスはBCPを意識する顧客からの新規案件も増加し、仕入れ・販売両面で顧客基盤が広がるなどプラス影響もあった。輸出での注力ビジネスの一つは高機能樹脂のモノマー。国内教社のメーカーと提携し、EVのほか、フォルダブルスマートフォン向けがメインの用途。高い耐熱性を有し、BCPを意識する顧客からの案件が増えている。

リン酸の輸出もビジネスの柱の一つだ。日本、タイが主な輸出先。食品添加剤、電材の洗浄に欠かせない材料だ。昨年は電力不足の影響で価格が高騰、業界全体で供給が滞っていた。当社は仕入れ先の分散策が奏功し、日系企業などへ安定供給を続けた。中国市場向けの輸入では、日系企業に限らず、ローカル企業向けにも高機能接着剤・半導体関連など情報電材分野が大きく伸びてきている。雷国光董事長・総経理は、来年迎える設立20周年のさらにその先に目標を向ける。二層の成長を遂げるため、まだ新ビジネスの種まきをしている段階だが着実に芽が出てきている。グループの総力を挙げて大きな花を咲かせたいと力を込める。